

アルミ由来水素で加温

アルハイテックが開発 温浴施設向け

資源リサイクルを手掛けるアルハイテック（富山県高岡市）は24日、空き缶やアルミくずを化学反応させて取り出した水素を燃料として湯を沸かすシステム「温泉パック」を完成させた。完



表した。温浴施設のボイラーの燃料は主に化石燃料由来のガスや重油を使っており、二酸化炭素（CO₂）を排出しない水素の利点を訴えて、全国の旅館やスパ、銭湯などに導入を働きかける。

水素は、空き缶や工場から出るアルミの廃材などをアルカリ性の反応液で化学反応させて取り出す。毎分100リットルの源泉を30度から45度に加温でき、大浴場や露天風呂にも十分な湯を供給できるという。研究開発には新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の助成を活用した。

2026年度までに30台の導入を目指す。温浴施設のほか工場でも需要がある。北陸ミサワホーム（金沢市）が運営するレジヤースポット「モン・ラックタカオカ」（高岡市）内の温泉旅館がすでに導入した。アルハイテックは同施設をモデルとして効果を全国にアピールする。

水素専用のボイラー。水素を燃料とし湯を温める。